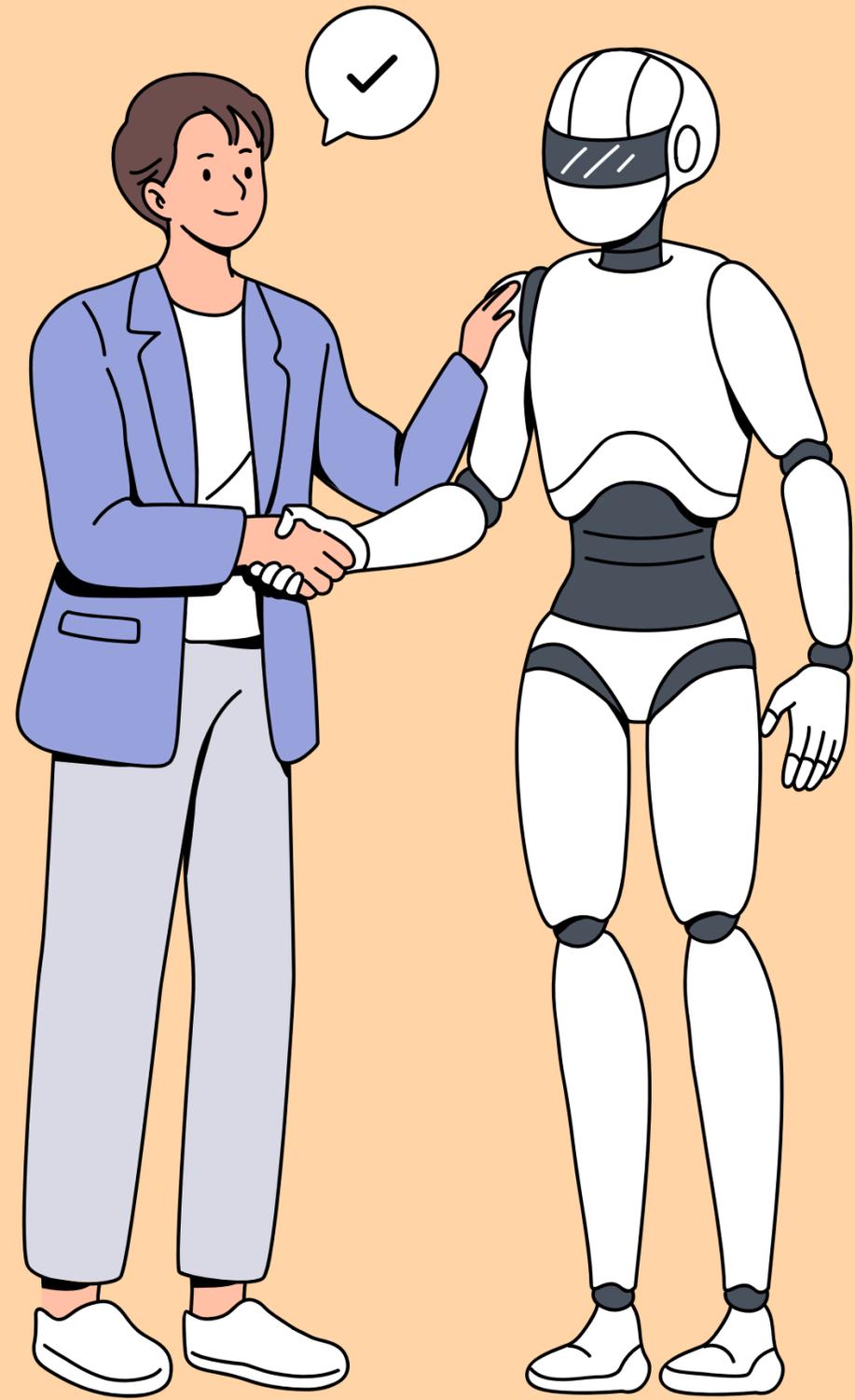


2026年 冬の白馬キャンプセミナー



一人100万人の魂を導く時が来た





AI

産業革命

AI時代の4つの人のタイプ



AIを無視する人

AIを怖がる、または必要ないと思う人。
変化が起きていても関わらない。

⇒時代の変化に取り残されやすい



AI答えをもらう人

AIに質問して情報、説明、
知識をもらう人

⇒AIを『便利な検索』として使う人



AIで成果物を作る人

AIをつかって文章、企画、音楽、画像
などを作る人

⇒AIを道具として使う創造者



あかし

SNSで詩編の祈りを配信

インスタルメント楽曲を
各配信ストアにて配信

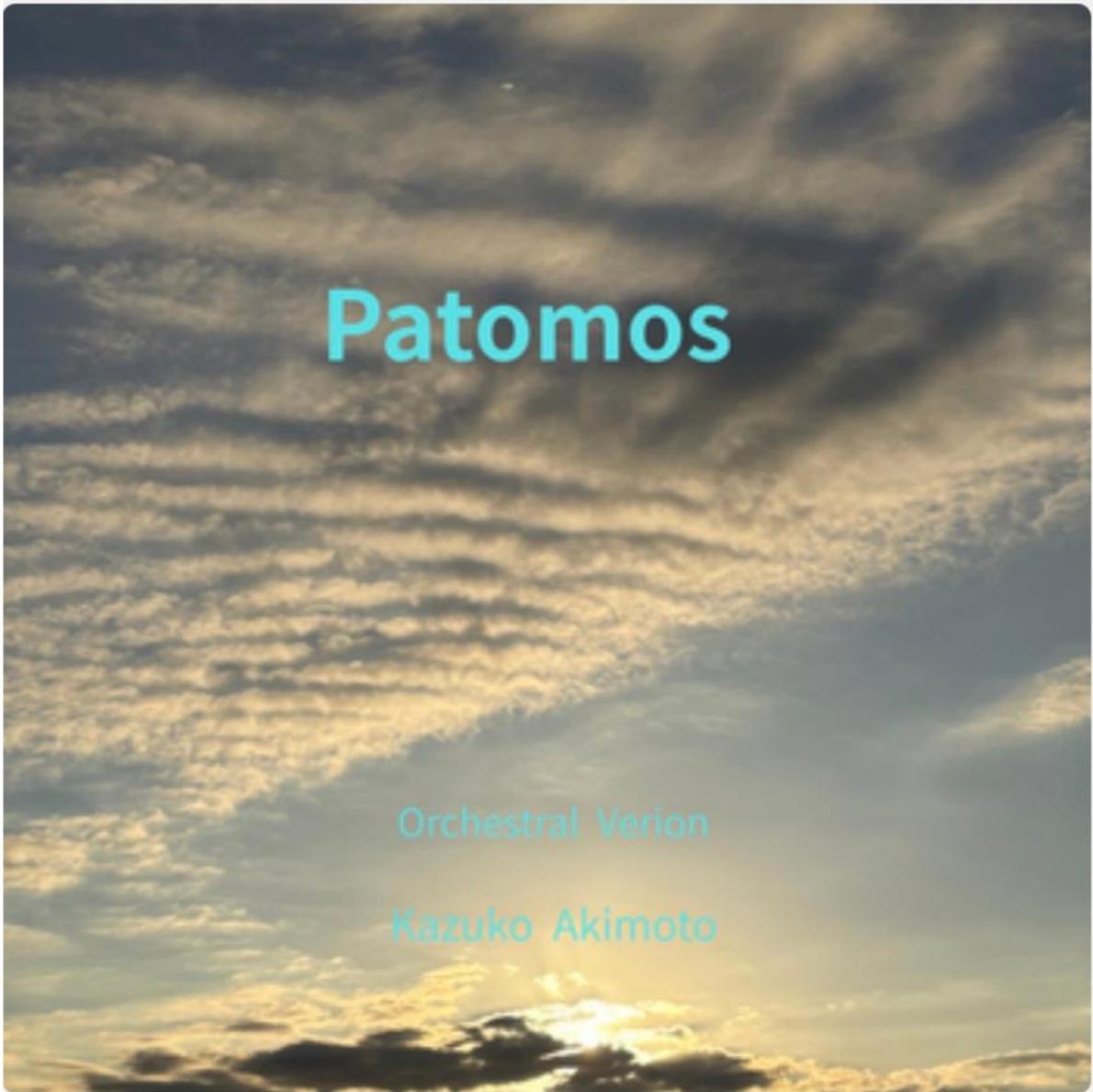
種まきの段階



YouTube アップルミュージック spotify etc...

10曲リリース Kzuko Akimotoで検索

お聴きになれます。

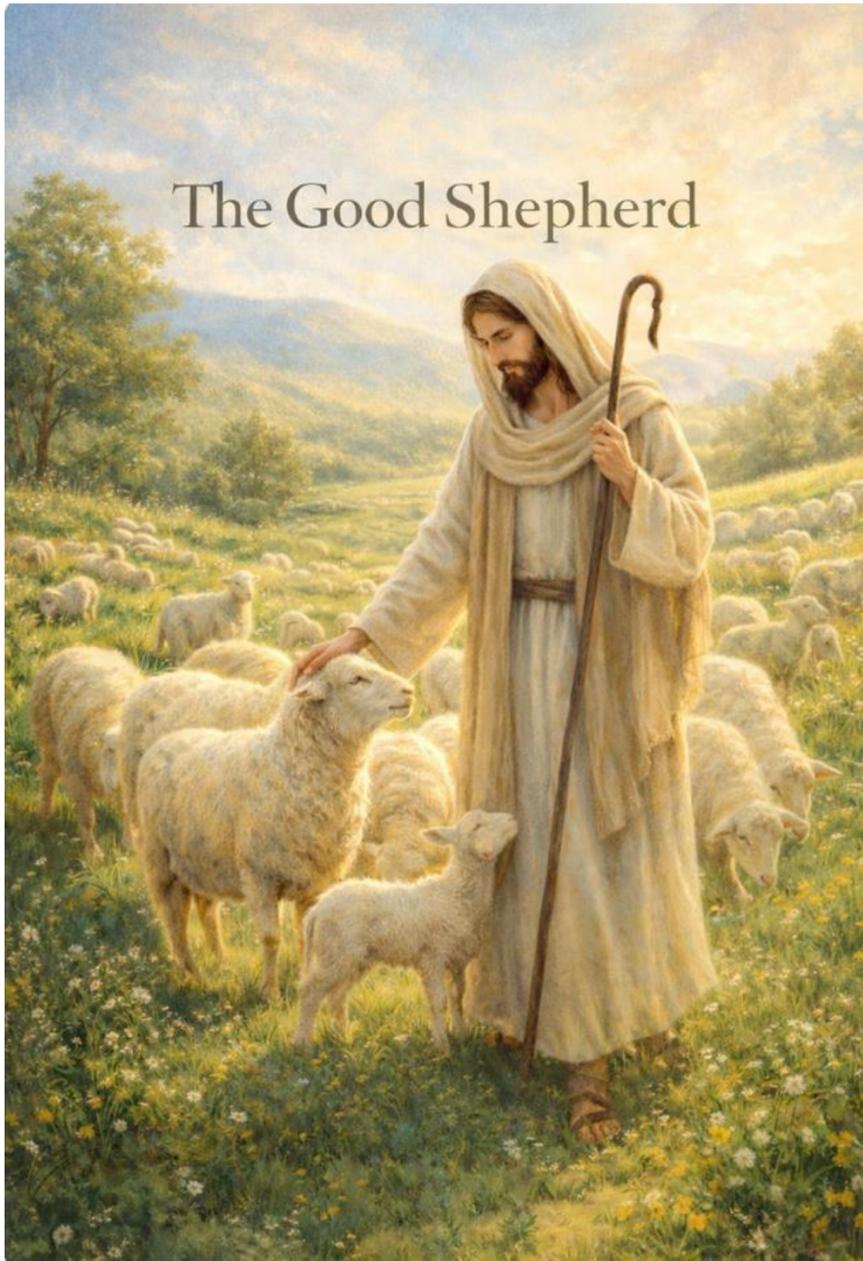


Patomos

The album cover features a dramatic landscape with a dark, stormy sky and a bright light breaking through the clouds over a body of water.

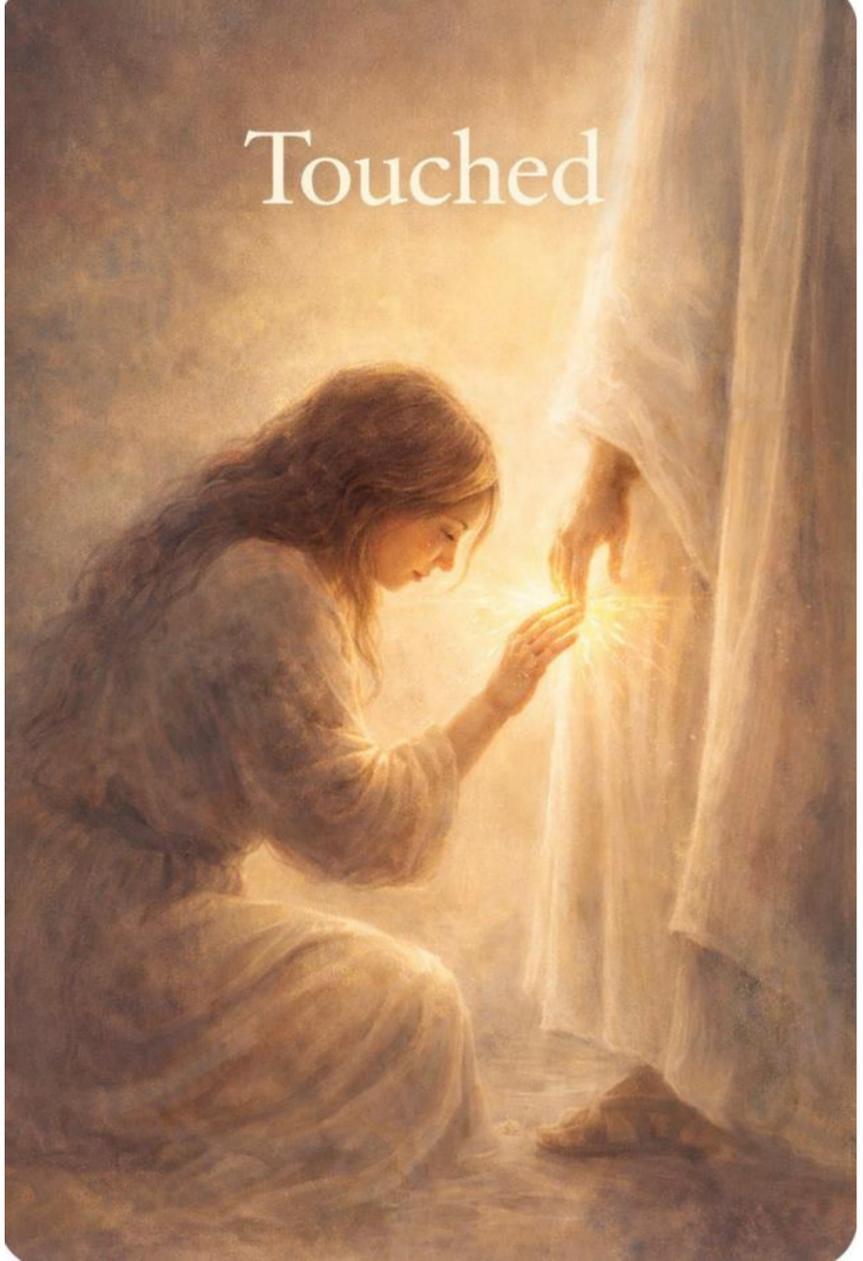
Orchestral Verion

Kazuko Akimoto



The Good Shepherd

The cover depicts Jesus as a shepherd in a white robe, holding a staff and gently touching the head of a lamb in a lush green field. A flock of sheep is visible in the background under a bright, hazy sky.



Touched

The cover shows a woman in a white dress kneeling in prayer, her hands reaching towards a glowing light emanating from a white, draped figure, possibly representing an angel or the Virgin Mary.

AIの方向を導く人 (最も重要)



AIをただ使うだけでなく

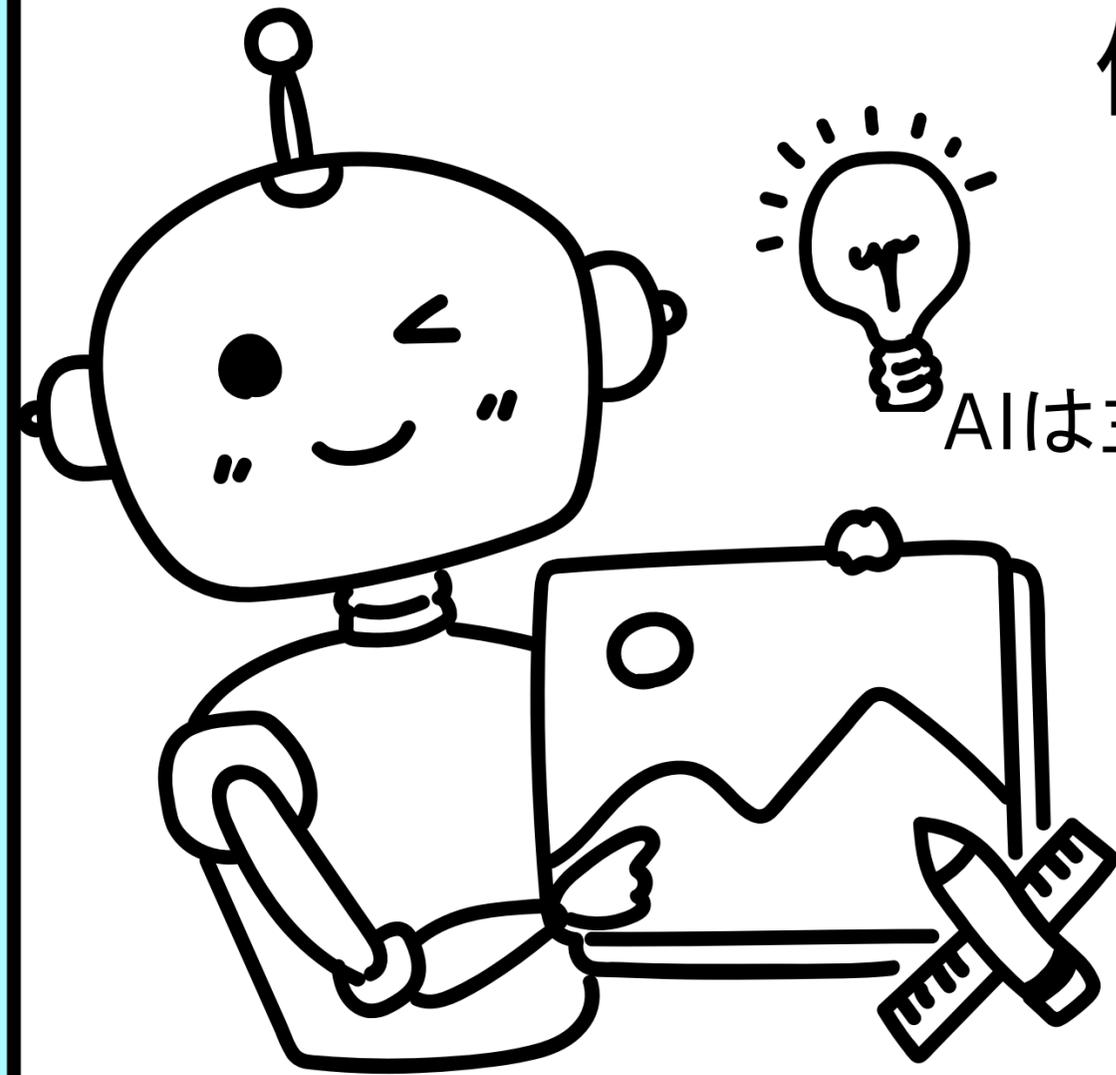
- 何のためにつかうのか**
- 人のために使うのか**
- 善のために使うのか**

**を考える
人**

AIの力を

人間の使命や価値のために導く人です

使命を支えるAI導入ロードマップ



AIは主役ではない。人を前に出すための「裏方」である

9万人規模に向かう教会と関連組織のために



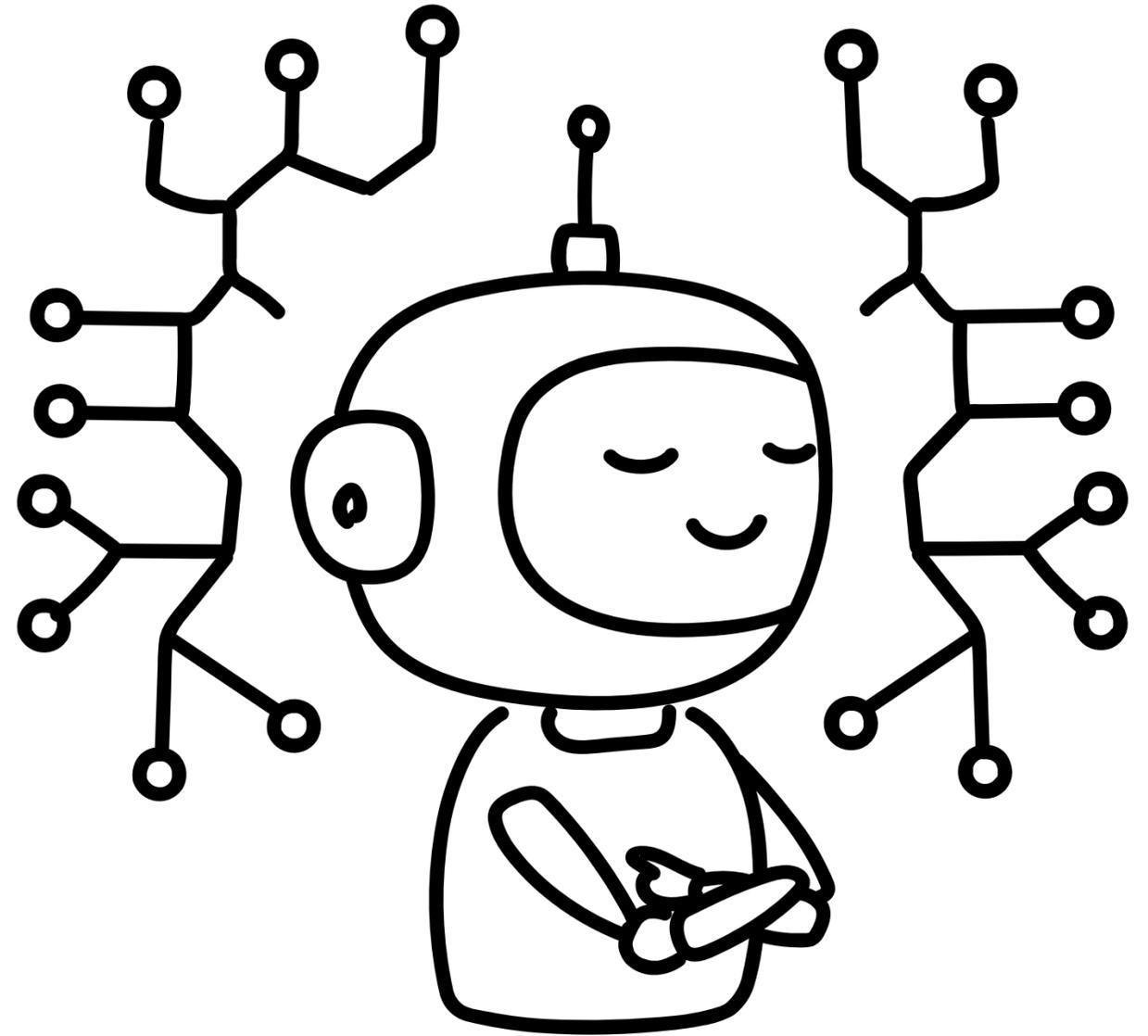
AIの前提思想

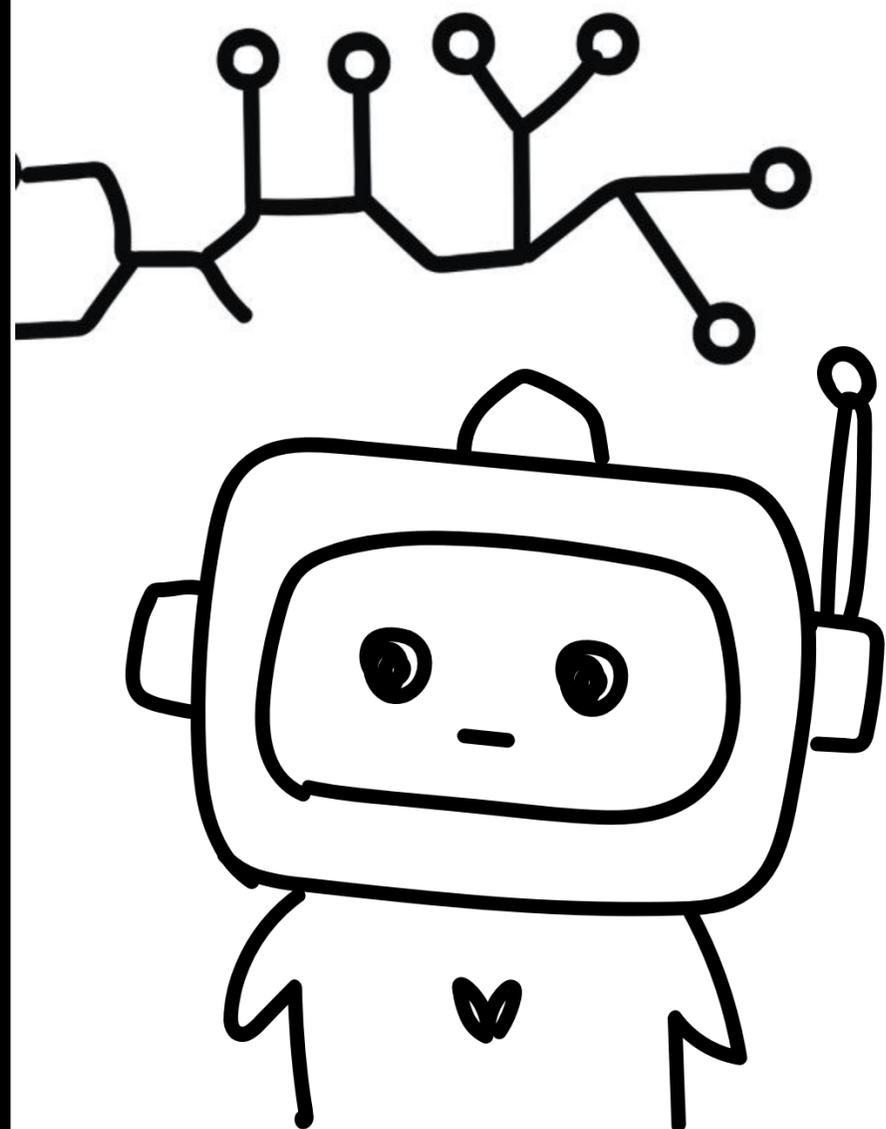
+ AIは「宣教を代行する存在」ではない

AIは、祈らない

AIは、愛さない

AIは、判断しない

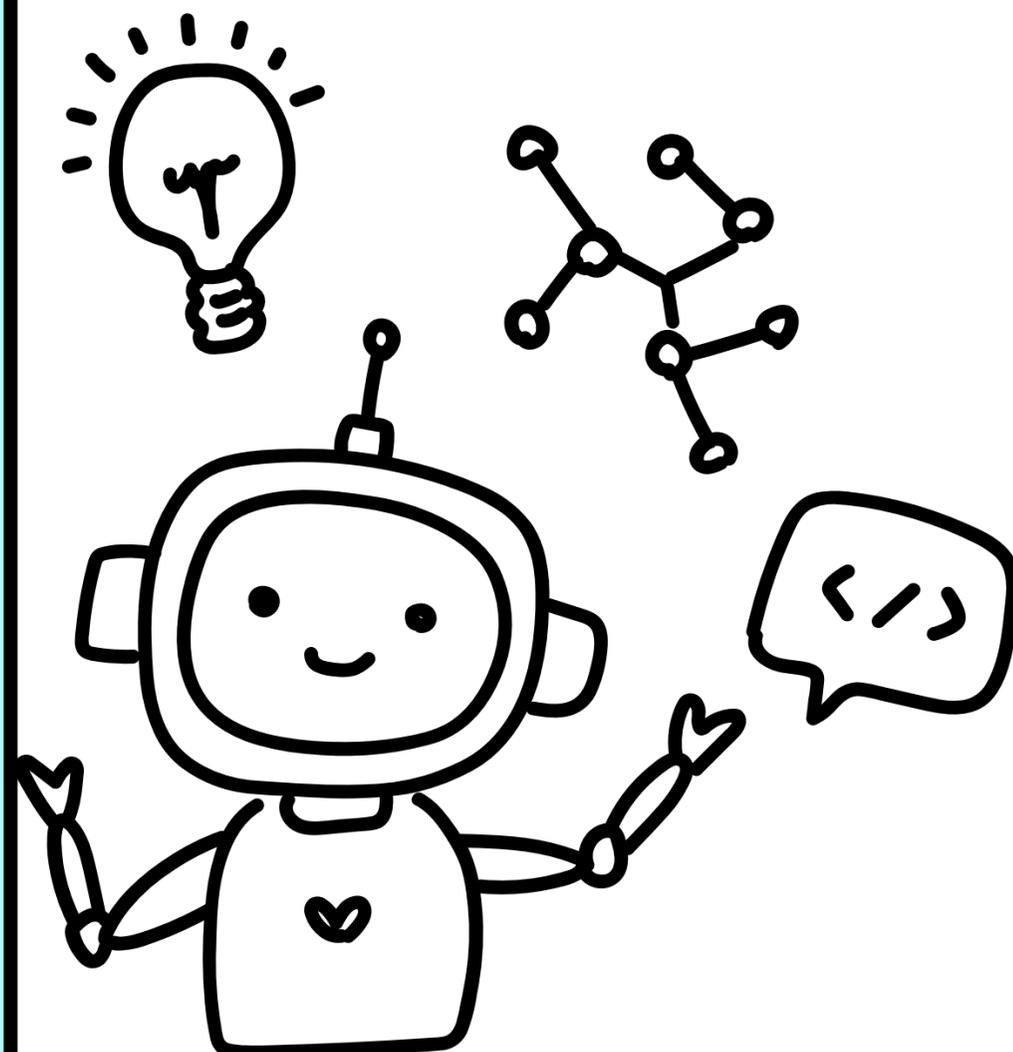




しかし、AIは何をするのか



AIは、人が人らしく仕える「余白」を生み出す



人を支える

時間を取り戻す

人が本来の働きに集中できるようにする

AIの定義

AIの役割は

「人を前に出すために、
裏方を引き受ける存在」

導入ロードマップ全体像

第0段階

共通理解（靈的・倫理的土台）

第1段階

業務の可視化・整理

第2段階

小さく安全に導入（教会内部

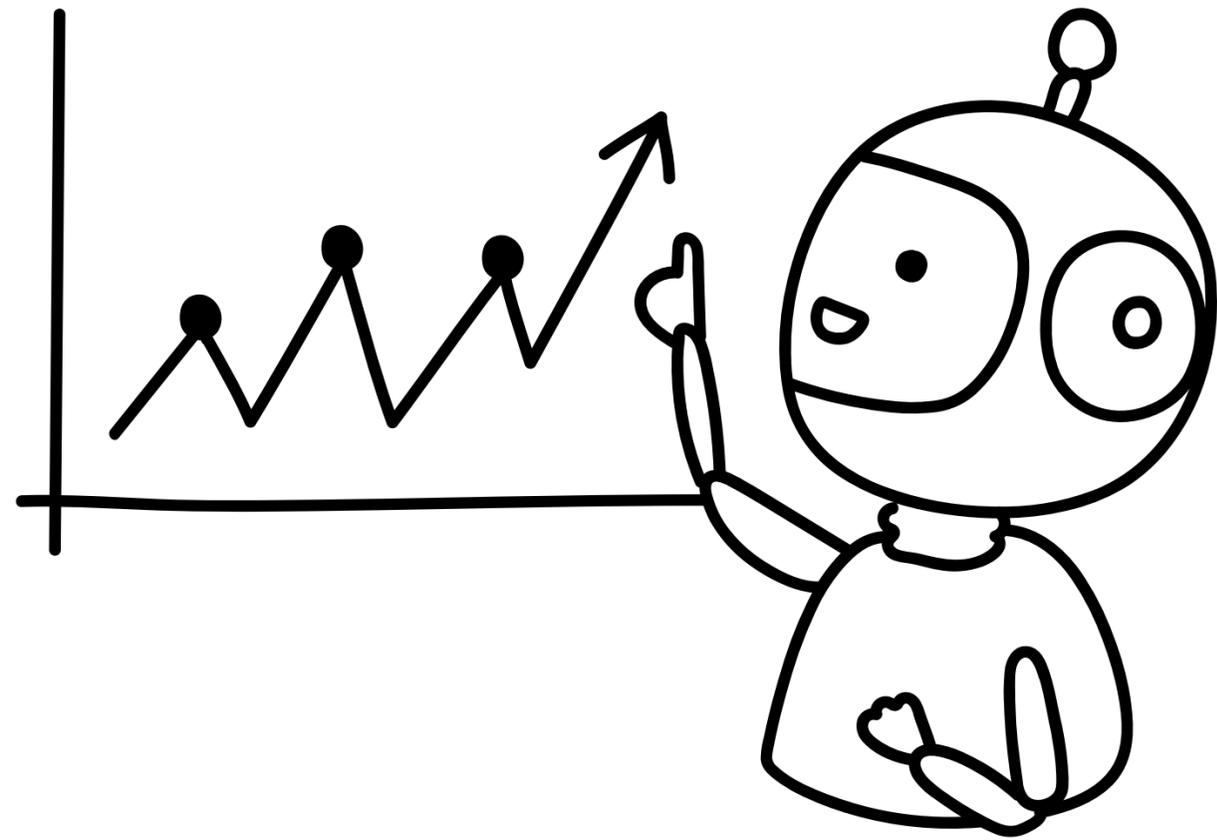
第3段階

部門別AI活用モデル

第4段階

9万人規模を支える横断AI

第0段階 | 共通理解 (必須



AIは教会の「霊性」を奪わない

むしろ、

祈り・聴く・寄り添うための時間を

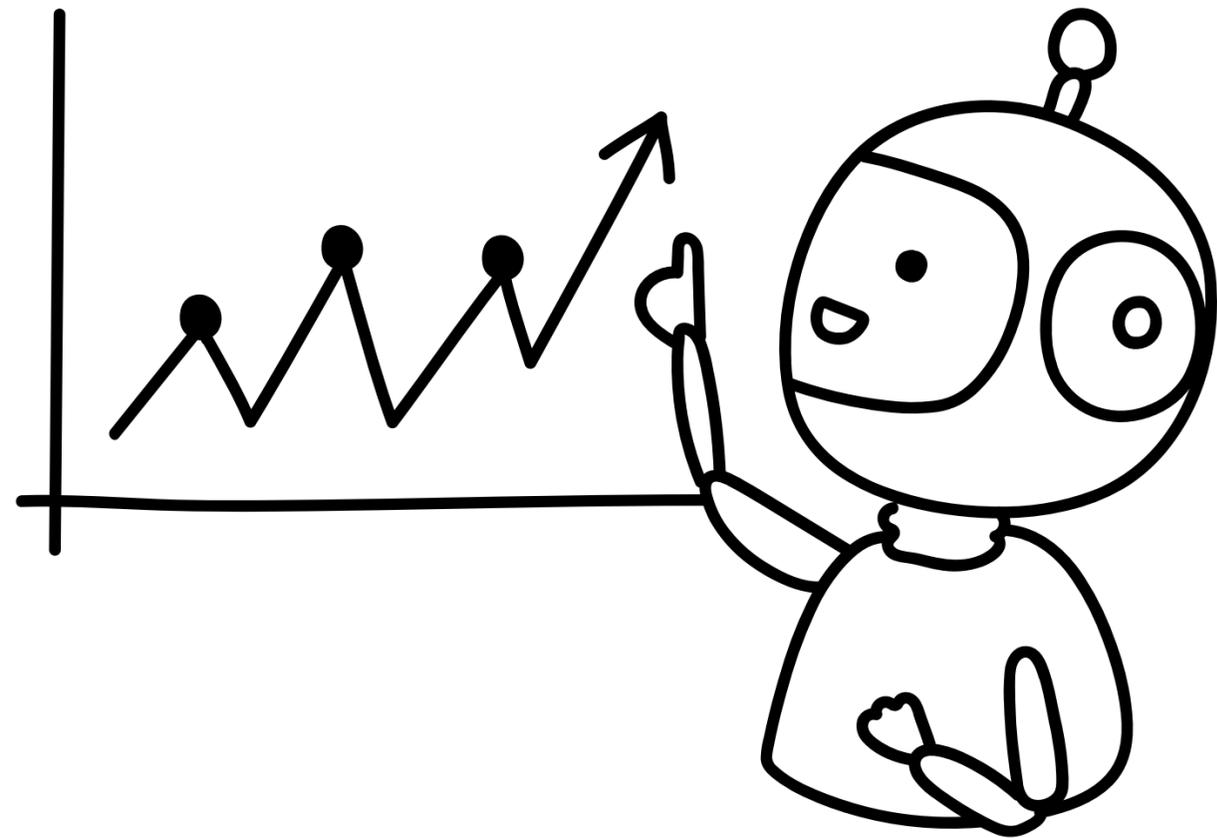
取り戻すための

道具です

なぜ最初に共通理解が必要か

- ・ 恐れ（監視される・仕事を奪われる）を先に解消するため
- ・ 霊性 vs テクノロジーという誤った対立構造を防ぐため
 - ・ 基準を、テクノロジー側ではなく神学・倫理側に置くことを明確にする

ここで決める3原則

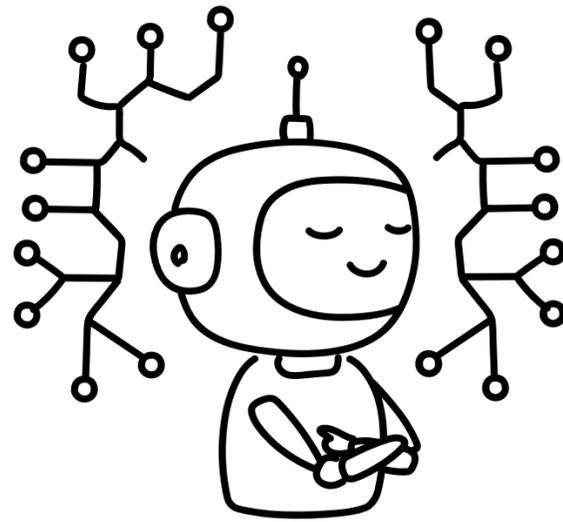


AI活用の揺るがない土台

- ・ 判断は必ず人間が行う。AIは提案まで。
- ・ 個人情報・祈り・牧会内容はAIに直接学習させない。
プライバシーと聖域を守る。
- ・ AIは補助、主役は人。この原則を絶対に忘れない。

第1段階 | 業務を「見える化」する

「AIを入れる前に、
まず私たちの働きを整理します。
神様から託されている働きと、
単なる作業を分けましょう。





業務の仕分け①：AIが介入しない領域

霊的・対人業務（AI不可）

0 0 1 1 0 1 0 1 0 0 0 0 1 1 0 1

1 0

0 1

- ・ 牧会、カウンセリング、1対1の深い交わり

- ・ 個人のための具体的な祈り

- ・ 宣教師・牧師による最終的な神学的・牧会的判断

- ・ 芸術・賛美における最終的な創作判断

1 0

0 0 0 1 1 0 1 0 1 1 0 0 0 1 1 0

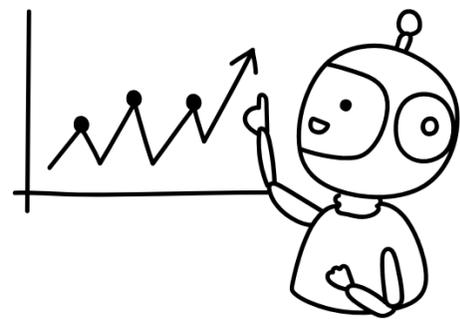


業務の仕分け②：AIが得意な領域

準備・整理・翻訳・事務（AI最適）



- ・ 説教や学び会の原稿下書き、構成案作成
- ・ 各種資料の多言語翻訳（※神学的監修は必須）
 - ・ 会議やイベントのスケジュール調整
 - ・ 過去の資料やデータの整理・検索
- ・ ウェブサイトのFAQ（よくある質問） 自動対応





なぜ業務整理が必要か

AI導入失敗の9割は「業務整理不足」

- ・何でもAIに任せようとして、混乱が起きるのを防ぐ。

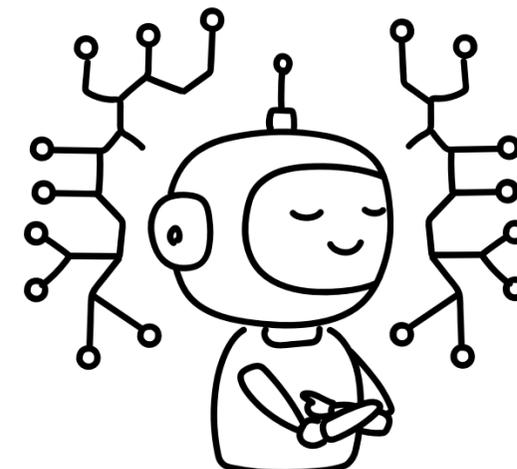
最も大切な「人がやるべき仕事」を明確にし、それを守るため

- ・費用対効果を最大化し、無駄な投資を避ける



第2段階 | 教会内部から小さく始める

「いきなり全体導入はしません。
まず“安全で、
失敗しても問題ない場所”から試してみましよう。」





最初に導入する用途（例）

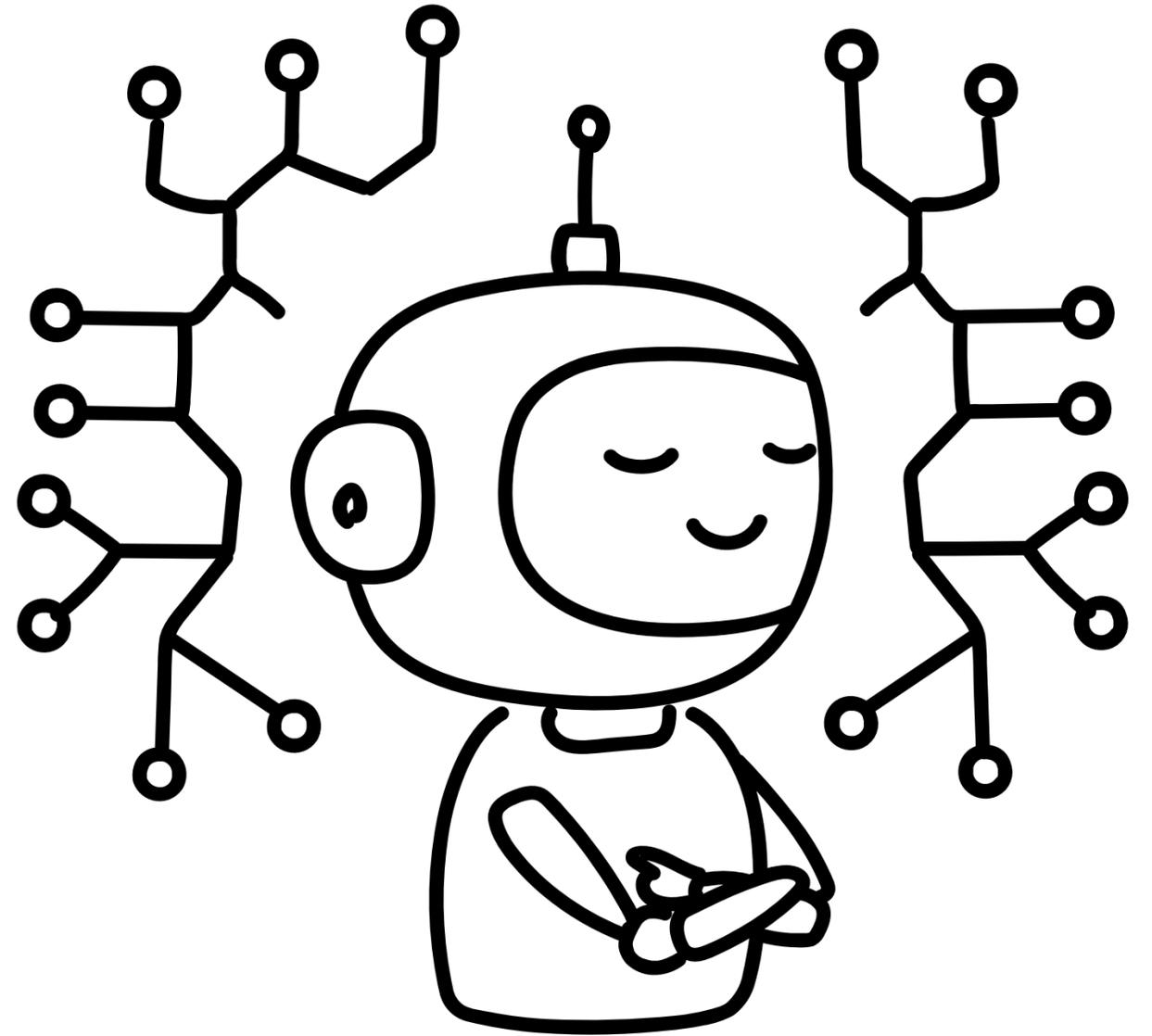
低リスクで効果を実感しやすい業務



- 説教・メッセージの構成整理
- 週報や礼拝要約の作成（オンライン配信用）
 - 教会案内・新来会者向けQ&Aの草案作成
- 海外宣教資料の一次翻訳（準備段階として）
- オンライン教会員向けの定型的な案内文作成

第2段階の目的

組織全体の心理的な
壁を取り払う



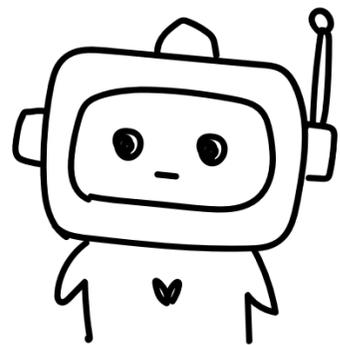


- 小さな成功体験を作る：「AIは便利だ」という実感を共有する。

- 「AI=難しい」というイメージを壊す
：誰でも使えるツールだと理解する。

- 現場のリアルな声を拾う

- ：実際に使ったからこそ分かる課題や可能性を発見

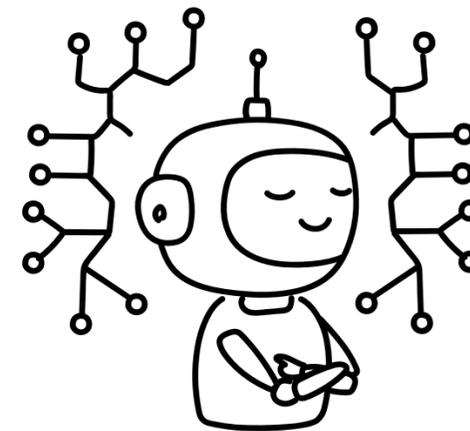


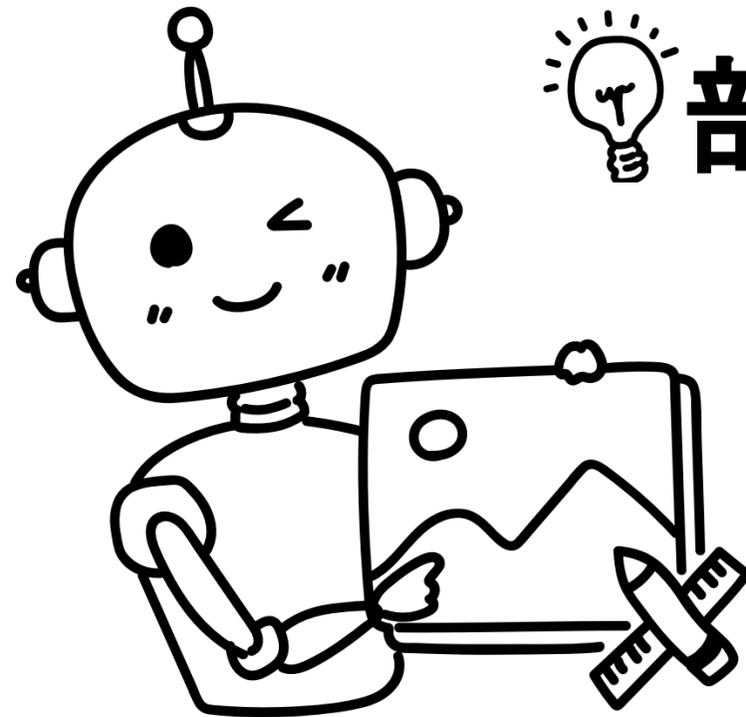
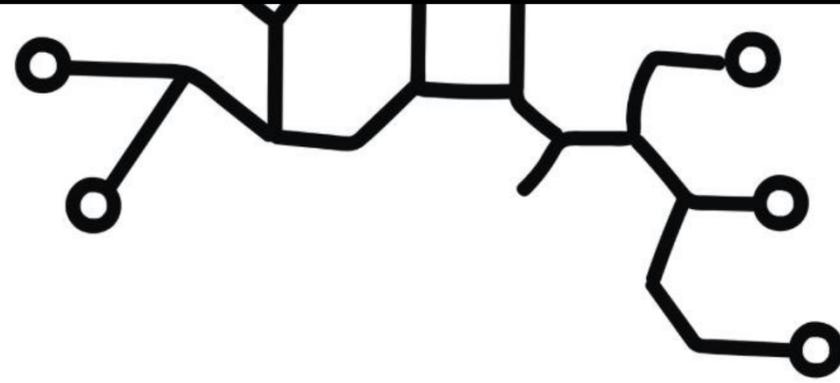


第3段階 | 部門別AI活用モデル

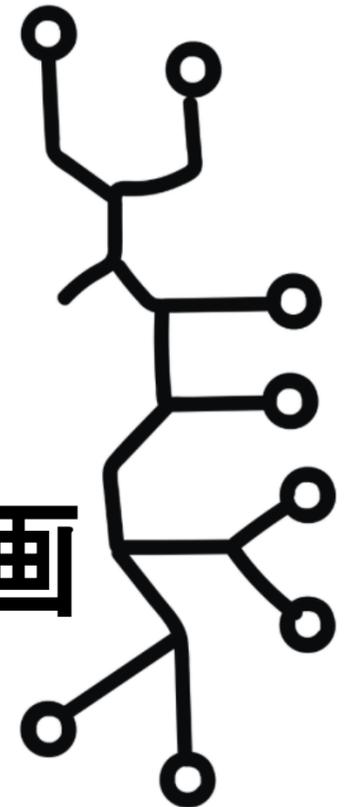
ここがスケール（組織拡大）の鍵

各部門の特性に合わせてAIをカスタマイズすることで、
組織全体の働きが加速します





 **部門モデル① : 出版・新聞・映画**



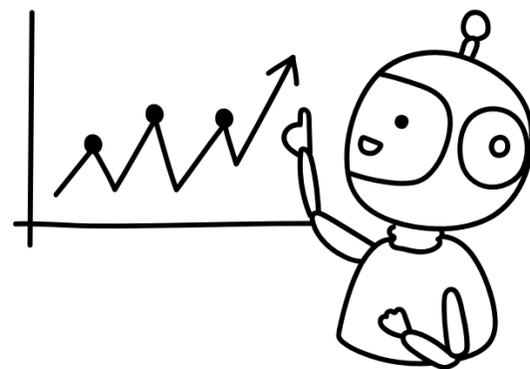


AI活用

記事や書籍の原稿下書き、構成整理

固有名詞やデータの事実確認（ファクトチェック） リスト作成

過去記事・膨大な資料からの関連情報検索

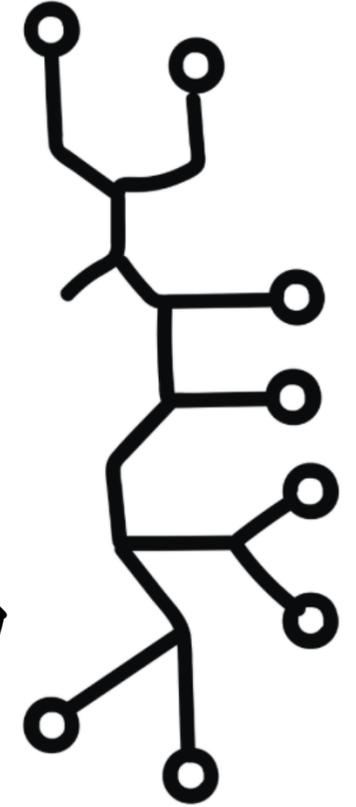
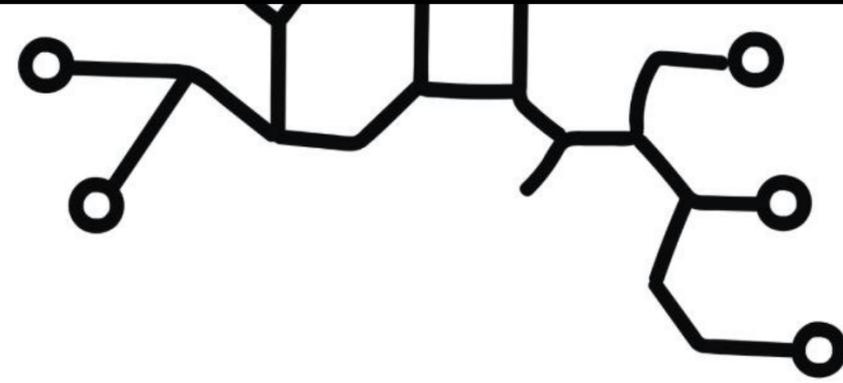


映像コンテンツの字幕・台本の多言語展開

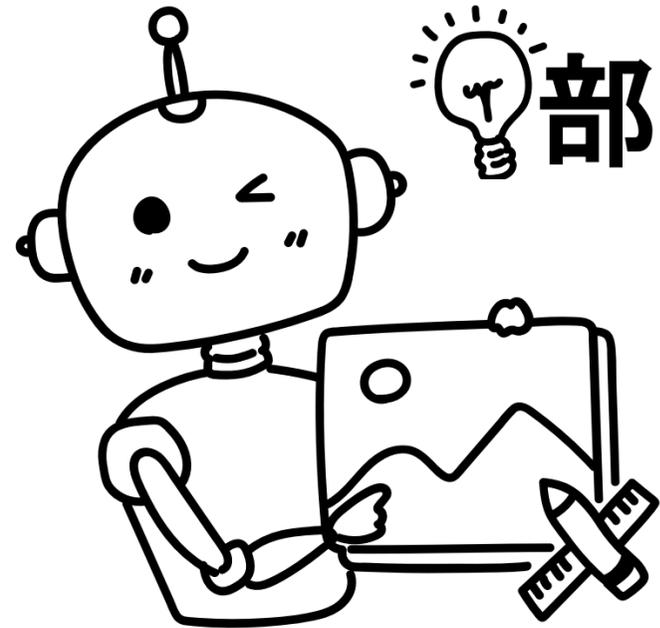


なぜ必要か

人は「考える・祈る・編集する」
という創造的な作業に集中できます。
発信スピードと質が、そのまま宣教力になります。



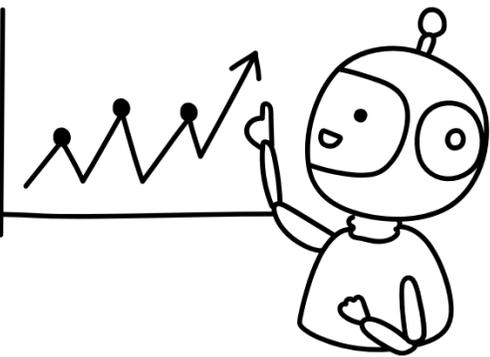
 部門モデル② : 賛美・ミュージック





AI活用

- ・ 賛美の歌詞の多言語翻訳（※神学的監修が前提）



- ・ 楽曲デモの構成案

（コード進行やリズムパターンの提案）

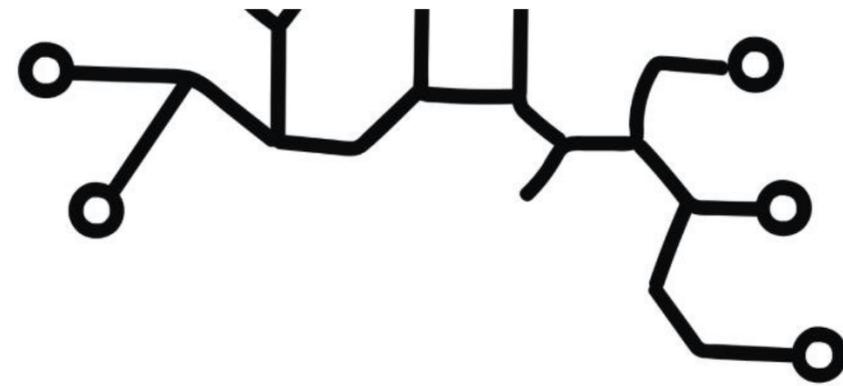
- ・ 海外の教会に向けた歌詞の背景・意味の解説文作成



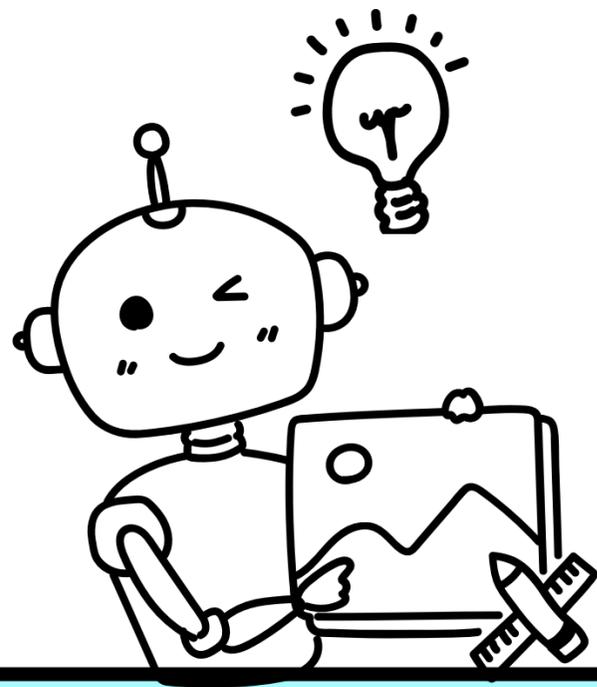
なぜ必要か

国や文化を越えた賛美の広がりを加速させます。

作曲者や奏者の創造的な時間を、
事務作業から守ります

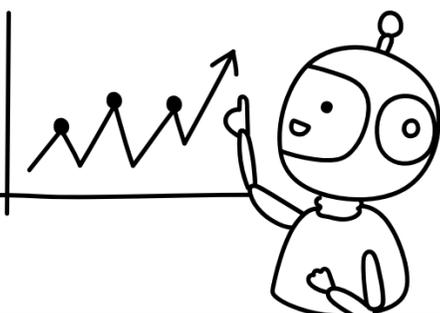


部門モデル③：海外宣教・派遣





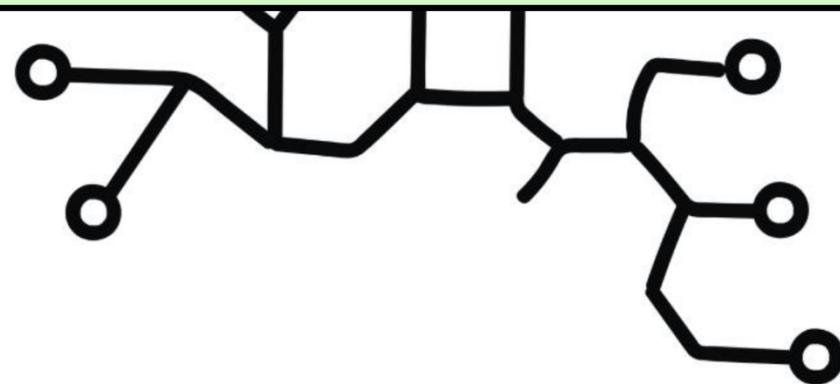
- ・ 派遣先の国別文化・宗教・習慣に関する基本リサーチ
- ・ 宣教師からの定期レポートの要約・整理
- ・ 支援者・サポーター向け報告書の草案作成



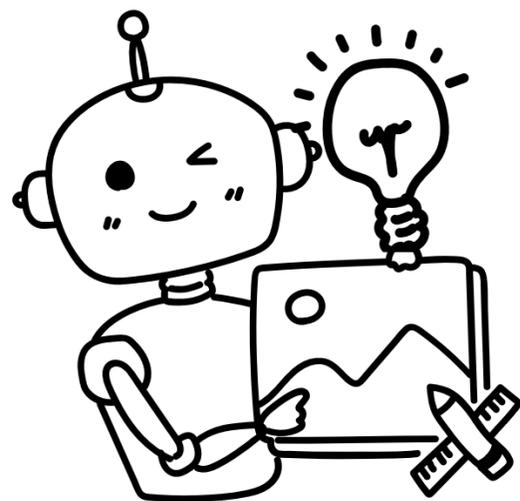
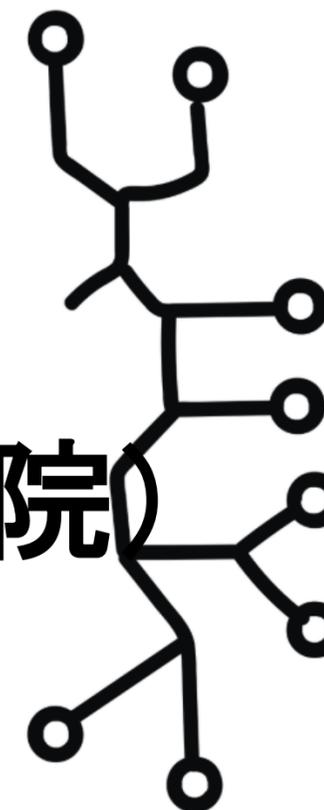


なぜ必要か

- ・ 現地の最前線で働く宣教師の報告業務負担を劇的に軽減します。
- ・ 情報が特定の個人にしか分らない「属人化」を防ぎます



部門モデル④ : NPO法人 (例 : 海外孤児院)





AI活用

活動報告書や助成金申請書のドラフト作成

現地スタッフと支援者間のコミュニケーション翻訳補助

医療・教育記録の整理と統計化

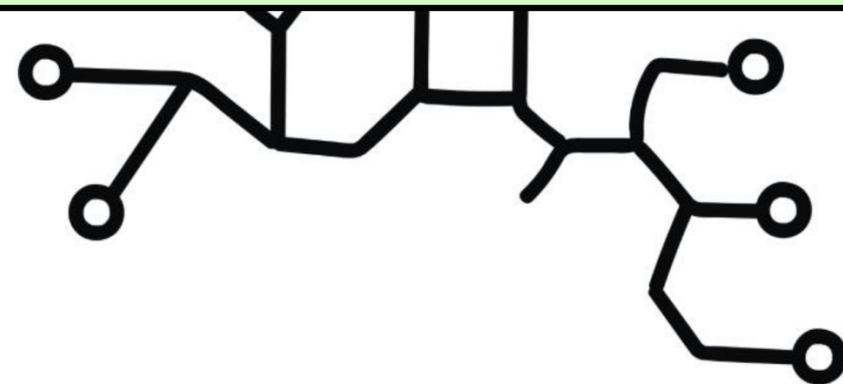
(※個人情報完全匿名化が必須)



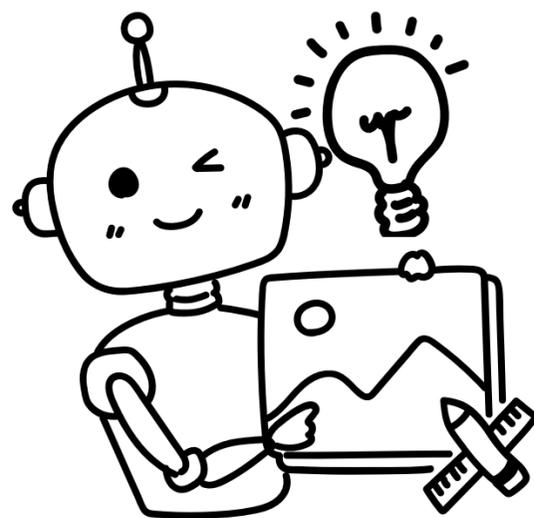
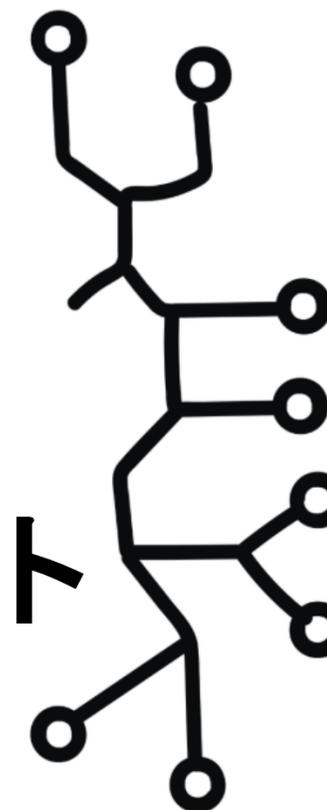


なぜ必要か

現場スタッフを「書類地獄」から解放し、
子どもたちと向き合う時間を確保します。
支援者に対する透明性と信頼性を向上させます



部門モデル⑤ : IT・インターネット





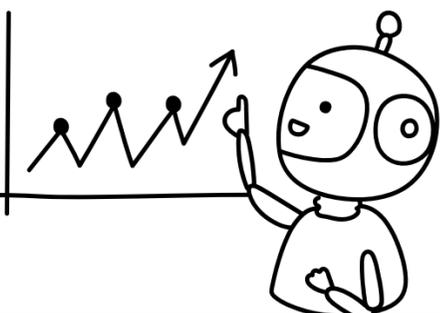
AI活用

教会専用AIのガイドライン構築と運用

オンライン教会員からの問い合わせ一次対応

組織内部のナレッジ（知識・ノウハウ）

検索システムの構築





なぜ必要か

9万人規模では、人力での個別対応は破綻します。

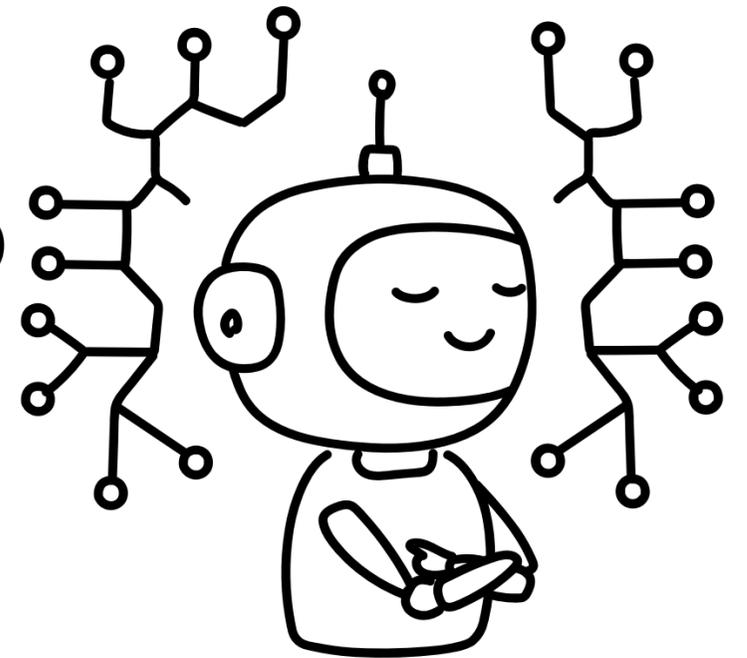
教会の文化と価値観に合った、
安全なAI利用環境の構築が不可欠です。

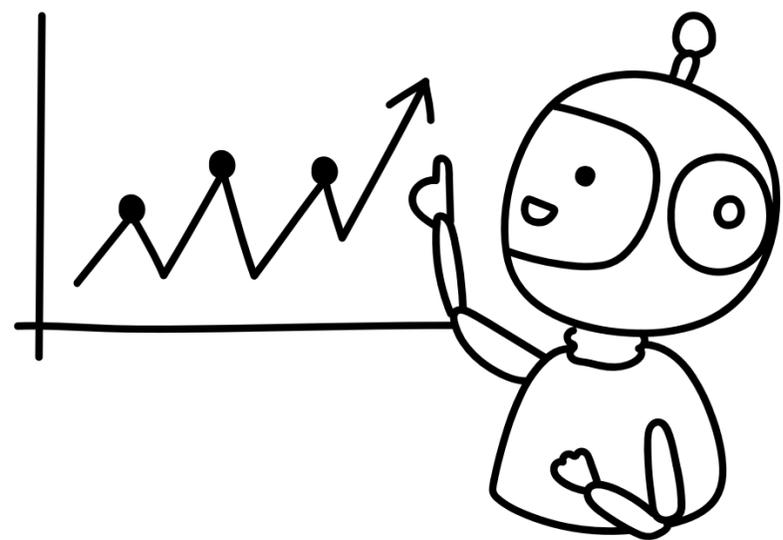
第4段階 | 9万人規模を支える「横断AI」

このAIは“答えるAI”ではありません。

“教会を支えるAI”です。

組織全体を静かに下から支える
土台となります。





横断AIとは、

組織全体の

「一貫性・負担軽減・安全

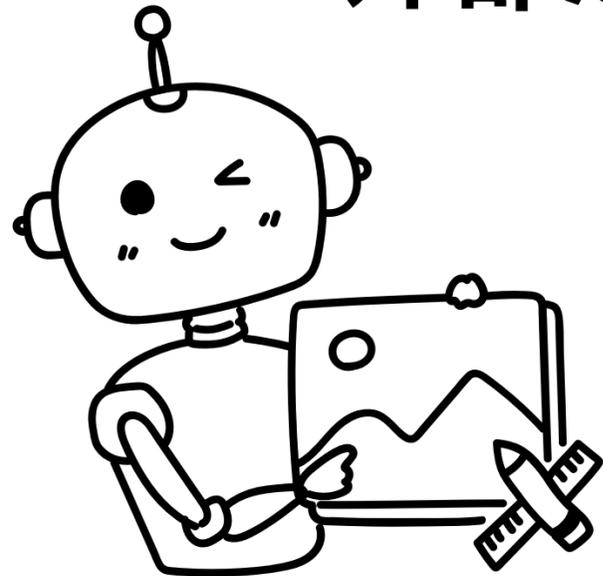
」

を守るインフラです。



教会専用「横断AI」の構想

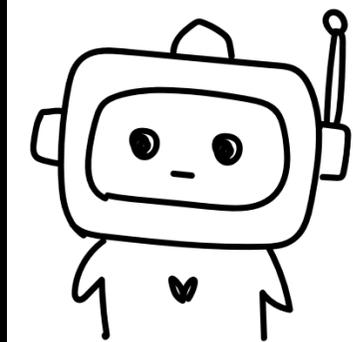
外部から学習せず、安全な領域で機能する

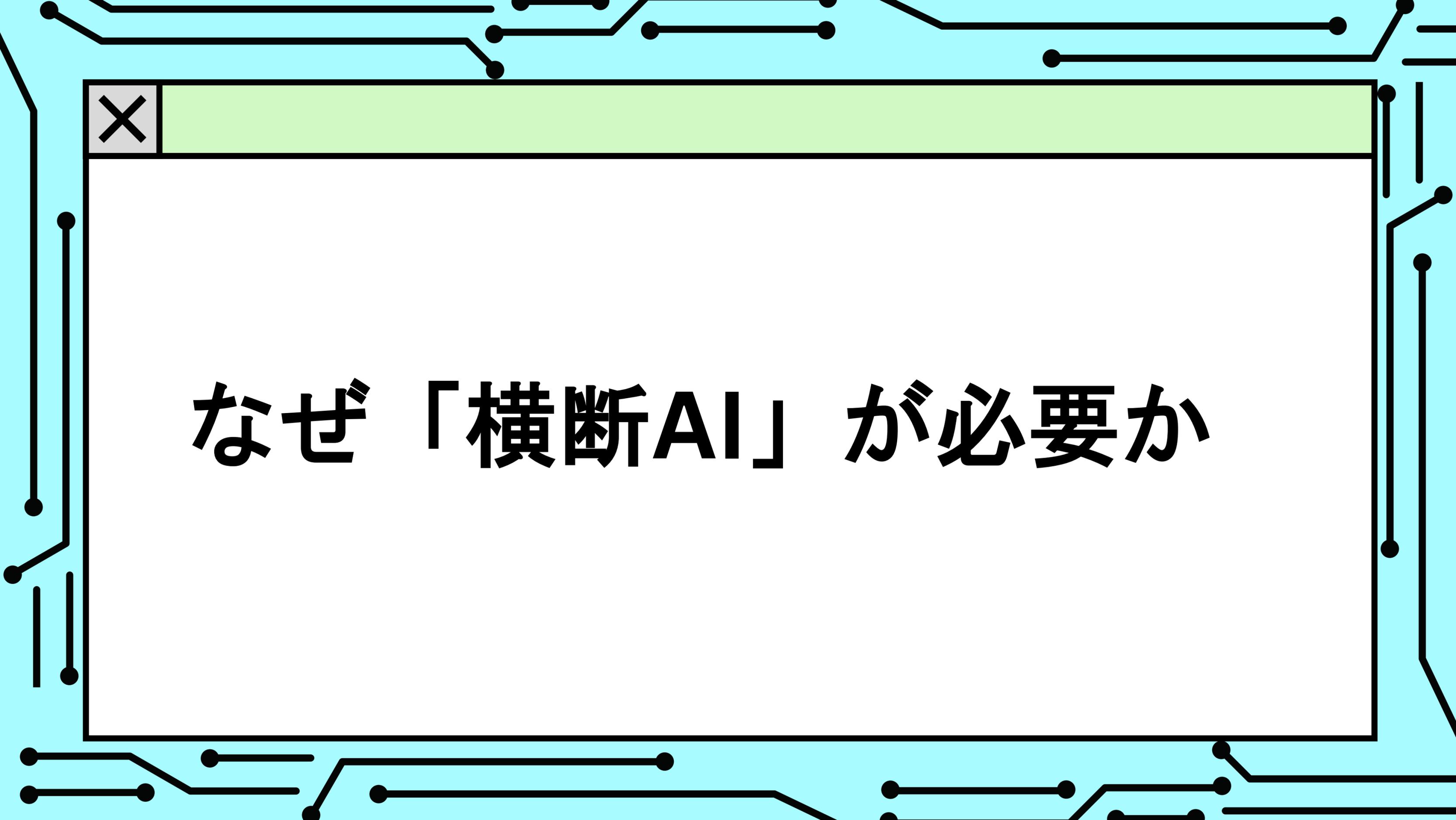




このAIは、
監修済みの教会内部データのみを学習します。

- ・ 教会の公式な方針
- ・ 集会やイベントに関する、よくある質問と回答
- ・ 各種案内の定型文
- ・ 公開済みの教理に関する基本情報の整理

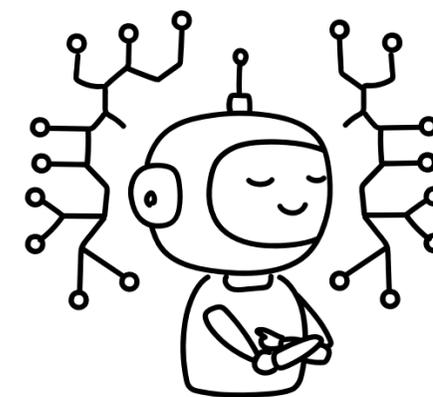




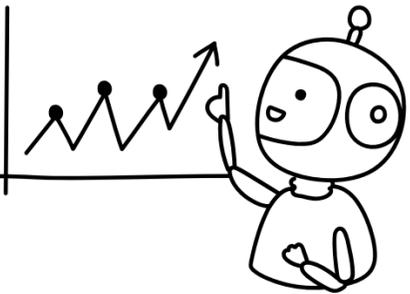
なぜ「横断AI」が必要か



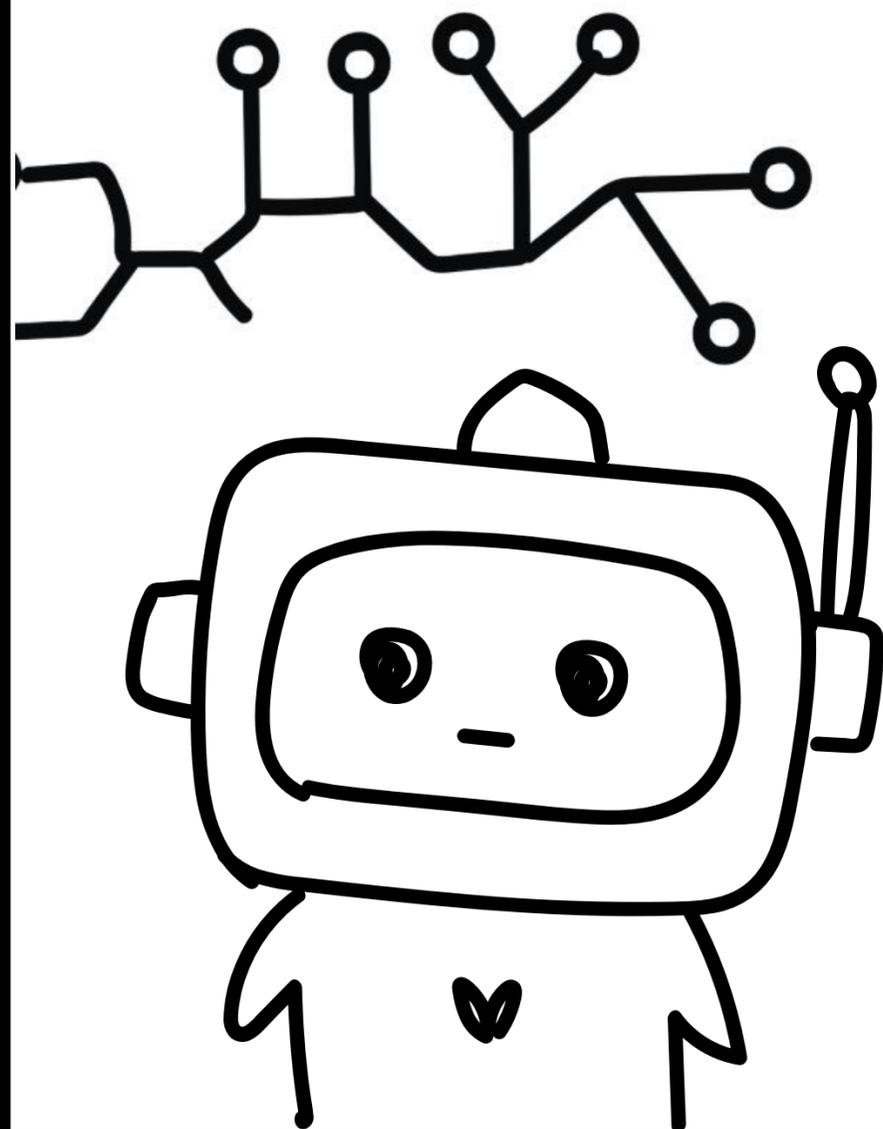
規模の拡大は、情報の混乱を生む



- 情報の一貫性を保つ：誰が聞いても、どの部門でも、公式な回答が同じになる。



- 誤情報の拡散を防ぐ：善意による誤解や、人による説明のバラつきをなくす。
- 牧師・スタッフの疲弊を防ぐ：何度も同じ質問に答える時間を削減し、本来の働きに集中させる

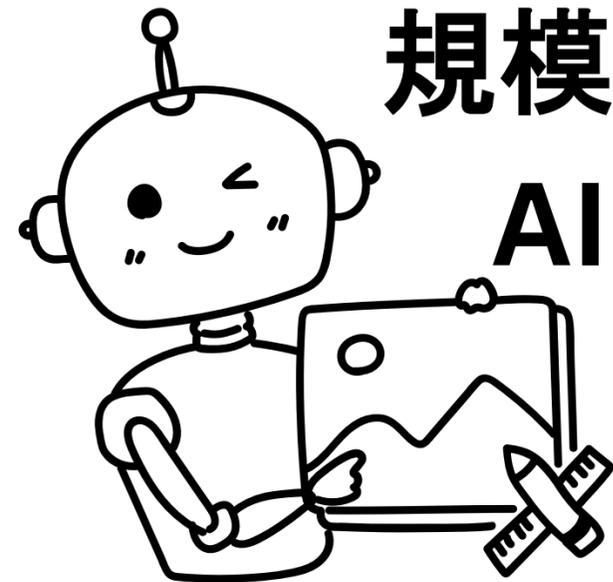


AI導入の本当の目的



結論

AIが増えるほど → 人は「祈り・判断・愛」という、
人にしかできない働きに集中する。



規模が大きくなるほど → 人を守るために、
AIという「裏方」の支えが必要になる

AI時代と人間の使命

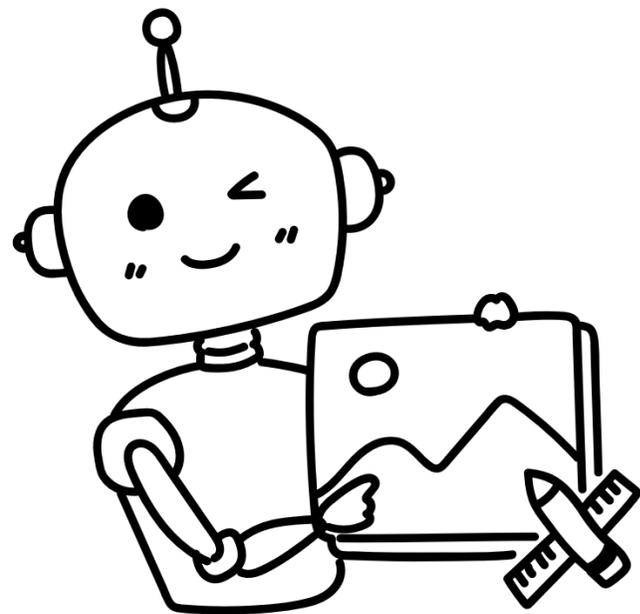
AIは多くの事ができます

情報を集める

音楽を作る

文章を書く

画像を作る



しかし AIにはできないことがあります

使命をもつことです

祈り聞き従う歩みと共に
一人100万の魂を救うために



AI × 世界宣教を
していきましょう